

# 北海道浮魚ニュース

平成 28(2016)年度 22 号

2016 年 10 月 27 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎サンマ南下期調査結果

**魚体は、24～28cm の中型が主体、29cm 以上の大型まじり**

サンマ南下期調査を以下の通りに行いましたので、その結果をお知らせします。

調査期間：2016 年 10 月 18 日～10 月 25 日

調査海域と調査点（表 1，図 1）：道東～三陸沖太平洋の 9 調査点

調査方法：CTD による海洋観測および表中層トロール網による漁獲試験（1 曳網あたり 1 時間）

### 1. 表面水温（表 1，図 1）

調査点は，親潮の分枝先端付近（沿岸側および沖合側）を含め，サンマが南下すると予想される経路に沿って設定しました。各調査点の表面水温は 11.8～20.4℃の範囲内でした。

### 2. 漁獲尾数（表 1，図 1）

表中層トロール網による漁獲試験の結果，9 調査点のうち，St. 6 と St. 14 の 2 調査点を除く 7 調査点でサンマの漁獲があり，総漁獲尾数は 2,772 尾でした。その内訳を見ると，沖合側の St. 9 の 2,551 尾の割合が非常に高く，その他の調査点における漁獲は全て 100 尾を下回りました。また，サンマの漁獲が少なかった調査点では，St. 7 と St. 8 では 1,000 尾以上のサバ類が，St. 16 と St. 17 では 3,000 尾以上のサバ類と 9,000 尾以上のマイワシが漁獲されました。

### 3. 体長組成（図 1，図 2）

表中層トロール網で漁獲されたサンマの体長範囲は，22～32cm 台でした。調査点全体の合計では，特大魚が 0.2%，大型魚が 30.0%，中型魚が 67.8%，小型魚が 2.0%，ジャミが 0.0%と，中型魚主体の大型魚まじりでした。前年は，特大魚が 1.0%，大型魚が 82.8%，中型魚が 16.2%，小型魚が 0.0%，ジャミが 0.0%と，今年と異なり 29cm 以上の大型が主体でした。

魚体区分は以下の通りです。特大魚：32cm 以上，大型魚：29cm 以上 32cm 未満，中型魚：24cm 以上 29cm 未満，小型魚：20cm 以上 24cm 未満，ジャミ：20cm 未満。

表 1 2016 年サンマ南下期調査の結果

調査点	調査年月日	位置		水温(°C)				曳網中の表面水温 (°C台)	漁獲尾数				
		北緯	東経	0m	50m	100m	200m		サバ類	マイワシ	カタクチイワシ	サンマ	スルメイカ
St.6	2016/10/19	39-52	147-47	19.7	14.0	10.9	4.4	16-20	0	0	0	0	0
St.7	2016/10/19	40-03	148-01	16.5	9.5	5.9	4.3	16	4271	0	0	16	0
St.8	2016/10/20	39-40	146-09	16.6	8.2	3.0	4.9	15-16	1432	7	0	98	0
St.9	2016/10/20	39-29	146-19	20.4	14.2	7.6	3.1	15-20	6	0	0	2551	0
St.12	2016/10/22	40-24	143-13	17.7	15.2	13.7	9.5	13-17	0	0	0	94	0
St.13	2016/10/22	40-19	143-03	18.5	17.0	13.3	10.6	14-18	1	0	0	2	0
St.14	2016/10/23	40-45	144-12	16.5	15.6	12.9	9.1	14-17	271	17	0	0	0
St.16	2016/10/25	42-15	143-59	11.8	6.4	3.6	2.5	11-12	6890	9571	0	5	0
St.17	2016/10/25	42-25	143-58	12.9	11.0	5.4	3.9	12	3616	12178	0	6	1
									16487	21773	0	2772	1

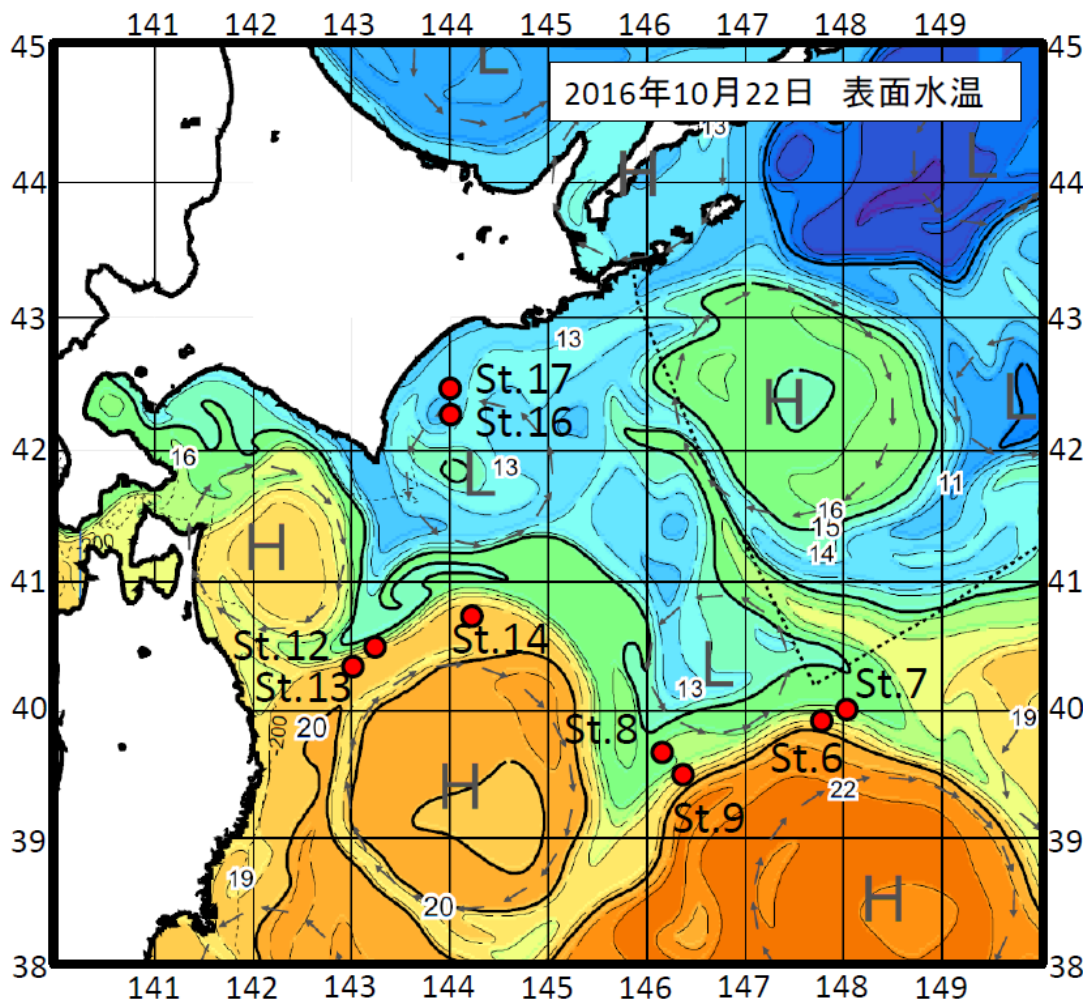


図1 2016年サンマ南下期調査の調査点（漁業情報サービスセンターの水温図を改変）  
 ※調査点における水温の詳細は表1を参照

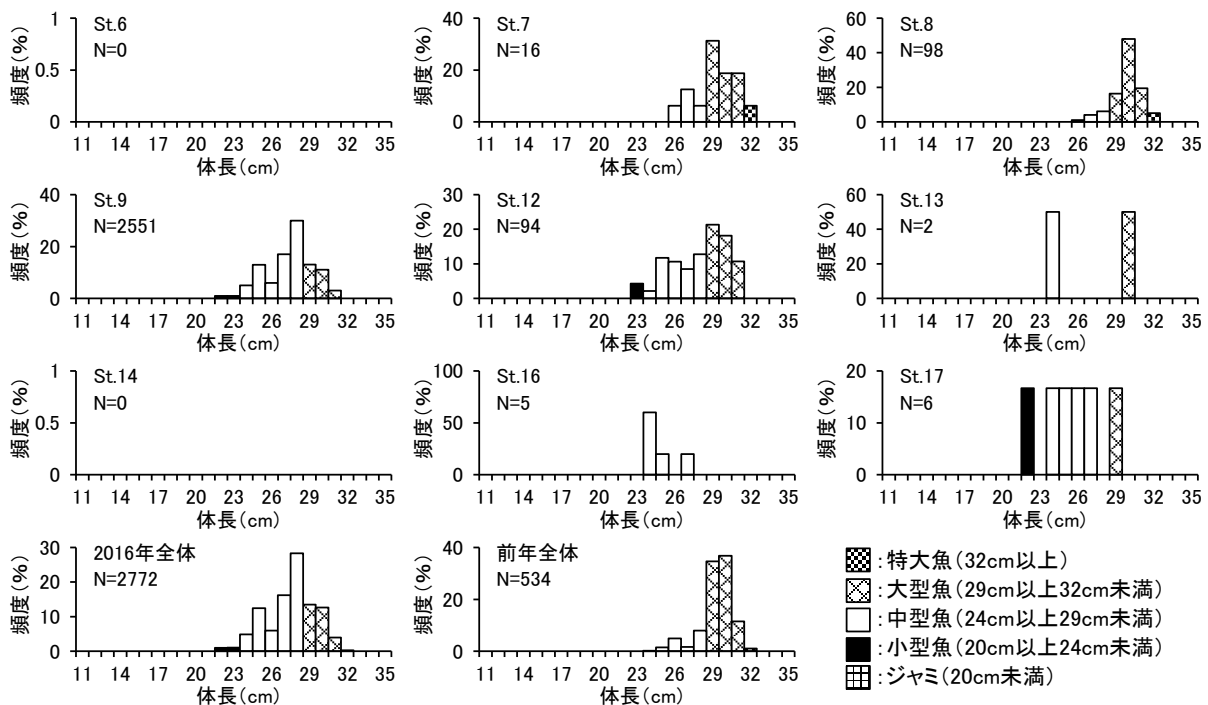


図2 2016年サンマ南下期調査における体長組成（Nは漁獲尾数）